



コツコツ とことん

大仙市立太田中学校
令和3年5月14日
NO. 19



うららかに たくましく ~ 耕し 萌えたち みのらせ さきみだる~

涙が出るほどうれしくて

今日5月14日(金)、前期役員認証式と生徒総会を行いました。その次第の中に校長の話がありました。議案書をよく読み、子どもたちに託したいことを原稿にして準備していましたが、別の話をしました。その理由は、私が考え、思い、願っている以上に伝えたいことがあったからです。その話を載せさせていただきます。今日5月14日(金)、私は各クラスを回り、授業を参観して校長室に戻ったところ、教頭先生が1通の封筒をもってきました。校長宛の封書です。教頭先生も不安そうにしていたが、私も何があったのだろうか不安な気持ちになりながら封を開けました。

以下、書かれていた文面です。

前略

今朝、五月晴れの中を自転車登校する中学生のさわやかな挨拶に感激してしまい、突然ですがお便りさせていただきました。

自分は、太田生まれの太田育ち、50年ほど前の太田中学校で学んだ人間です。当時、「山の麓に太田あり」のコピーで、ふるさとの風土や人情など、疾風怒濤の思春期の生徒らに地域感・ふるさと意識を醸成させてくれた先生方を後年になって感謝した記憶が蘇りました。その気持ちは現在でも、同級会のたびに自然と話題になることが不思議なことで、教育効果？いい意味で洗脳でもさせられていたのかもしれませんが。

自宅が比較的太田中学校の近くでもあることから、これまでも登下校時の多くの中学生から挨拶をもらい、多感な中学生が大人になってもこのまま誰にでも挨拶できる人間になってほしいと常々思っておりまして、自分もできる限り声掛けをしてきました。それと同時に、大人目線でみると中学生の地域での挨拶は、学校の指導の一環として単に形のみと思った時期がかつての自分自身にあったことが、素直に恥ずかしい限りです。

理屈などどうでもまずはあいさつから・・・高校時代は体育会系にすっぽり身をゆだね、そこでの経験が自分の存在と周りの人たちとの関わり方のベースになり、さらにその底には中学校時代に無意識のうちに感じさせられていた、ふるさと太田の風土や地域が、心の支えになっているのは確かな気がします。

今朝、水引き作業のためビニールハウス横に出た際、田んぼの水鏡に映る残雪の鳥海山のたおやかな姿、東には奥羽の青い山並み風景を愛でてい

たら、中学生らの元気で明るいおはようございますの挨拶。何とも言われぬさわやかな気持ちになりました。自転車を踏む子らが元気で健やかに・・・平和な社会が続いてほしいと思わず願ってしまいました。上手には言えませんが、中学生らの純真な声に涙が出そうになったのは確かです。地域の中学生に生かされ、ここに住んでいて良かったと感じました。

自分の感じたその思いを家族に伝えたら、自分らも気持ち良く挨拶する中学生の姿にいやされているとのこと・・・、うまく言えませんがこのことは生徒の皆さんにも、是非お伝えいただければと勝手ながら思うところです。

冬季は登下校の子どもたちとあまり接触できませんが、少子化の中、子どもたちそのものの存在は地域の宝ですし、その子どもたちを学校という地域で指導して頂いている先生方に改めて感謝いたします。

ふるさと、それはどんな苦しみや悲しみをも吸収してくれる力があると言われる。子どもらが、将来、心のふるさとを意識できるような心豊かな人となってほしいと願いながら、子どもの明るい光景を地域に広げて下さっている太田中学校への感謝の気持ちとします。

敬具

令和3年5月12日

太田地域 一住民()

太田中学校校長先生様

この文面を、紹介しようとPCに打ち込みながら涙腺が弱くなった自分を感じています。

地域の方々は大中学生をしっかりと見守り、応援してくださっています。何か大きな、特別なことだけが地域への貢献、地域の力になるのではなく、日常の何気ないことの大切さを改めて実感しました。このお手紙には「さわやか」という言葉がなんだかできます。「さわやか」太田、今年の太田中の合い言葉、目標です。それを実践してくれている大中学生、地域を愛する大中学生を職員全員が誇りに思っています。

でも、これは今回に限ったことではなく、多くの先輩たちも行ってきたこと、我々職員の力はわずかなもので、子どもたちを慈しみ共に育ててくれる地域・保護者の力があってこそだと考えています。地域の皆様、保護者の皆様ありがとうございます。この後も子どもたちの成長に力をお貸しください。

最後に、封筒の裏の差出人には、次のように書かれてありました。

「太田中を応援する一住民」より